

今週の「人プロ」第14回



災害に伴う人権課題

人プロ 75、167ページ

令和6年9月27日(金)

避難所生活における人権課題

要配慮者への対応 障がい者、高齢者、外国人、女性など

避難所全体で理解・協力

- 情報伝達
- メンタルケア
- 支援ニーズの聞き取り
- 環境づくり

「要配慮者の特性に応じた避難所における要配慮者支援ガイド」より



災害時は極限状態

想像以上のことがたくさん起こる

いじめ、差別はよくないと分かっているはず

- ・正しい情報を得る手段の準備
- ・事前の備えの徹底
- ・いつでも思いやり

なのに…



福島第一原発事故による風評被害

「放射能」

なんかよく分からなくて怖い...

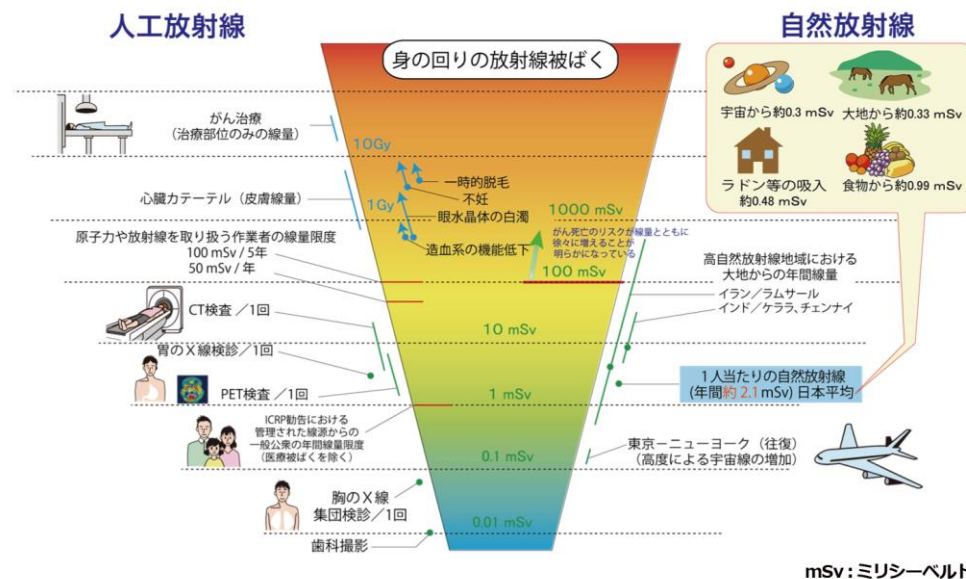
被ばく線量の比較→

「放射線による健康被害等に関する統一的な基礎資料」より

福島県からの避難者 に対するいじめ

「お前たち、福島だろ。
放射能がうつるからさわんなよ。」

「小学生のための放射線副読本」より



あのひとことで

地震の後、外での運動を禁止されていたぼくたちは、しばらく休みだったサッカーの練習が始まると聞いて、とびあがって喜んでた。久しぶりに会う友達とのあいさつもそこそこ、ボールをけり始めた。

久しぶりの校庭で、ぼくたちはむ中になってボールをけった。「やっぱり、外で運動できるのは楽しい、気持ちいい。」そう思いながら練習をしているうちに、コーチから集合の音がかった。コーチは、3週間後に、となりの県のチームとの練習試合が決まったことをぼくたちに伝え、「はりきりすぎて、けがをしないように」と、話をしめくった。

練習からの帰り、ぼくたちは練習試合の話でもりあがった。地震いらい、外での運動がせいでんされ、家族もいそがしくて、なかなか通出することもなかったからだ。その日から、練習試合の日が来るのが、とても楽しみで、これまで以上に練習に力が入った。みんな、久しぶりの試合に勝ちたいという気持ちでいっぱいだった。

3週間後、ぼくたちはバスに乗って試合会場に向かった。グラウンドで、すでに練習を始めているチームもいて、さっそくアップとドリブル練習を始めた時だった。友達のバスが大きくそれ、相手チームの方に転がって行ってしまった。ぼくは「すみません」と、大きな声を出しながら、ボールの方へ走って行った。転がっていたボールは、相手チームの一人にあたり、もう一度「すみませんでした。」といってボールを拾おうとした。その時「お前たち、福島だろ。放射能がうつるからさわんなよ。」とつぶやいたのが聞こえた。

ぼくは、顔の中が真っ白になって、自分たちのベンチにもどった。それまでのうきうきした気持ちは消え、試合に勝っても気持ちは晴れないままだった。

(出典) 文部科学省道徳教育アーカイブ
※福島県の子供が実際に体験した話をもとにした資料です。